

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193500253		
法人名	株式会社 元気な介護		
事業所名	グループホーム くらしさ室蘭		
所在地	室蘭市幸町12-10		
自己評価作成日	2023.2.20	評価結果市町村受理日	2023.4.20

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0193500253-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193500253-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和5年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年にも及ぶコロナ禍の生活で、利用者様の生活にも行動制限の影響が見え始めてきました。行きたい所に行けない、会いたい人に会えない、思い通りにならない事が多かった生活で精神面にも身体面にも大きな影響が出始めていると感じた1年でした。また、今年1月にはついに当ホームにもクラスターの波が押し寄せ、居室にこもる生活を余儀なくされた事でストレスフルな状況となり、身体的では立位や歩行状態が悪化する方もいらっしゃいました。なので気力・体力両面の低下を食い止めるべく、身体状況の確認の徹底やメンタル面での観察強化を職員個々がしっかり行い、情報共有を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市から海の見える南側方向の高台にあり、JR室蘭駅から徒歩圏内になる住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームで、小規模多機能型住宅介護事業所を併設している。法人は、札幌本社で道央圏や胆振管内、関西地区で介護事業を展開しているグループ会社で、認知症高齢者グループホームや小規模多機能型住宅介護事業所、訪問介護・看護、居宅介護支援、サ高住や住宅型有料老人ホームなどを幅広く運営している。当事業所は、2020年5月に有料老人ホームから建替え移行して開設し、以前から地域の関わりもあるが、コロナウイルス感染症対策で制限をしており、地域との交流や外出行事などが出来ていない。若い職員が多く、和やかな雰囲気、24時間情報共有のITシステムを活用したケア記録で合理的な取組を実践している。認知症高齢者の事業所として、こちらからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を玄関の壁面に掲示し、理念の共有に取り組んでいる。採用時のオリエンテーションにおいて、資料をもとに説明を行っている。	事業所の理念は、昨年にて地域密着型サービスの意義を踏まえて、職員全員で検討して一部修正した。職員各自が仕事の終わりに振り返り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナで地域の行事に参加は出来なかったが、出退勤や外出時などには積極的に挨拶している。	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との関わりは制限しており、挨拶程度になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族等に対して認知症への理解や介助方法などの相談やアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍につき開催は出来ていないが、参加予定者に資料を送付し皆様からご意見等をいただきサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策の為、書面会議で行っており、議事録を参加予定者や家族に送付している。次回から通常開催を予定している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り指導を仰いでいる。市職員の運営推進会議への出席は無い。	空床状況等は定期的に報告しており、以前から協力関係を築くよう取り組んでいる。クラスター発生時は、保健所のサポートで感染症対策を行い、終息に至った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて施設の方針や身体拘束の悪影響について職員への周知を行っている。定期的に身体拘束委員会を開催し身体拘束をしない支援について確認している。日中は玄関を施錠せず思いの傾聴や気分転換の活動を行っている。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行っている。内部研修会も定期的を実施しており、指針やマニュアルを整備して、身体拘束をしないケアを学びながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別な研修会は行っていないが、職員各自がそれぞれ学び職員会議で話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書は利用者と家族との共同作業であると考え必要書類について十分に説明を行い家族等からの質問についても丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、何でも話しやすい雰囲気を作っている。	ホーム便りは毎月発行して、家族へ運営状況の報告をしている。また、希望者のみ写真付きの利用者毎の手紙を随時送付している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は、殆ど面会時や電話等で聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやケアカンファレンス時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けるように取り組んでいる。	ユニット会議は、カンファレンスを兼ねて、月1回開催している。個人面談は、年1回定期的に実施しており、もう1回は不定期に行っている。職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。また個別評価を実施し適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全体計画に基づいて実施している。コロナ禍にて外部研修が少なく職員に研修の情報提供を行うことがあまり出来なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍のため対面での交流が厳しいなかオンラインにて交流を図りサービスの質の向上を目指している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活において、各入居者様に寄り添い、何を思い感じているか、常に気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの作成前後、面会等の際には、ご家族様の思いに耳を傾け、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、そのご家族様から話を聞き何を求められているのかを知り、それをサービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と会話をしながら入居者様が出来る事を考え、食器拭きや選洗濯物たたみ等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来設される際や電話にて、施設での生活状況や問題など報告・相談し共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は面会においてご家族様だけでなく知人・友人が来られることもありましたが、コロナ化になり現在は支援が出来ていない。	新型コロナウイルス感染症対策の為、友人や知人等の関係継続の支援は制限している。理美容等は、訪問を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はテーブルを囲んでお互いの顔を見ながら食事をしたり、レクリエーション活動を行えるような環境を作っている。利用者同士の関係を観察し必要時は職員がさりげなく声をかけ笑顔が見られる関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、気軽に相談できる相談窓口となれるように努めている。相談に対して活用できるサービスの内容について提案を行う等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に基づき努める。	利用者が皆意思表示ができるので、食事等の希望は叶えられるよう支援している。また、困難な場合は生活の中で把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には前任のCMほか関係者から引継ぎを受け情報収集を行っている。また、本人・家族から思いを語る機会を作りこれまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状況等、記録等に記入し職員同士で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMと介護職員を中心にモニタリングを行いケアプランの作成に反映させている。ケアの内容については、他職種での情報交換と検討を行い、様々な意見を取り入れたケアプランを目指して作成している。	職員間で24時間共有のITシステムを活用して、利用者の様子や家族からの意見や要望、主治医の意見等も情報共有しており、月1回のカンファレンスで検討し、計画作成担当者が集約して、現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から介護計画の見直しを行っている。また、送りノートの活用、日々の業務内でのケアカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の体調がよくない場合には、Dr.へ報告しNsにも診ていただくようになっている。通院も介護職員が同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族が希望される医療期間をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。また主治医への状態報告や指示受けを確実に、医療機関との関係づくりに努めている。	かかりつけ医の受診支援は、本人や家族の希望で行っており、訪問診療と家族または職員同行での受診支援となっている。訪問看護は週1回の定期訪問で、24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回(火)の定期訪問により入居者様の健康管理を行っており入居者様の異変時には24時間連絡取れる体制となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来・病棟師長との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処置について話し合う機会を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について施設として出来る事・出来ないことの範囲について家族に説明している。その範囲の中で、地域の協力医と連携しながら出来る限りの対応を行っている。	重度化や終末期の対応については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族と主治医と打ち合わせして、看取りの場合は、主治医・訪問看護と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。施設内研修にて緊急時対応についても学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施し、通報設備等を使用して夜間想定訓練を行っている。	火災の避難訓練は、マニュアルや備蓄、備品も整備して、年2回定期的に行っている。自然災害対策BCPも作成し、災害対策を行っている。立地上、高台な為、津波の心配は無く、地震も少ない為、火災と停電時の対策を行っている。	今後は災害時の地域の協力体制の構築とバックアップ施設との提携等に期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話させていただいているとの精神で、一人一人の人格を尊重し、その方の性格等を把握し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を行っている。	人格の尊重とプライバシーについては、接遇の研修を定期的に行っており、声掛けや言葉使いなどもスピーチロックを含め随時指導して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用入居者様が気兼ねせず希望や想いを発言できるよう働きかけ、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様一人ひとりの体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいのか、本人の希望に添った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。化粧道具等、必要なものは無くならないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感・彩り、器にも気を配り五感で楽しむ食事の提供に努めている。日々の会話中で、好きな食べ物や苦手な食べ物を聞き可能な限り職員が献立に取り入れるように努めている。	献立と食材は外部委託で行っている。利用者は、テーブル拭きやお盆拭き、配膳など手伝っている。行事食は流しソーメンや誕生日にケーキなど提供しており、今後は回転寿司など食べたいものの外食を再開する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量(栄養バランス)や水分量を把握し、一日を通じて確保し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声かけを行っている。出来ない方は職員が介助する。治療が必要な方は、病院受診の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	フロアのパソコンで介護記録を確認し、排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るよう誘導や声掛けを行う等している。入院時にオムツを使用されていた方についても出来るだけトイレ誘導し徐々にトイレでの排泄に戻	利用者毎の介護記録で、排泄パターンを把握し、一人ひとりの時間や仕草を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っている。ヤクルト等の提供と水分チェックを行い、必要に応じ下剤の服用で調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって曜日や時間を変更するなど柔軟に対応している。	浴室はユニットタイプで、入浴は週2回行っている。朝9時30分から夕方まで可能で、利用者によって曜日は決めているが、利用者の状況に合わせて入浴剤も使うなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は過度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け夜間の安眠に繋げている。また脚の浮腫がみられる方、長時間椅子に座っている方に関しても、ベッドで休息する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報票をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるよう努めている。内服薬に変更があった場合は申し送りを行い、症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じることが出来る役割活動やレクリエーションを、心身の状態に併せて一日の活動に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は行わないが、天気の良い日には施設周辺の散歩にお連れするなどして、気分転換を図っている。	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出行事は制限しているが、施設周辺の散歩や外気浴は随時支援している。コロナ終息後は、ドライブなど外出行事を再開する予定である。	今後は、家族と一緒にの外出行事企画など、家族の意向も確認して、外出行事の再開に向けた計画に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりして、施設で管理を行い必要に応じて希望の品物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が家族に電話し、お話できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所の温度は一定にして、快適に過ごしてもらえるようにしている。	リビングや食堂を中心にしたL字型の配置の内部で、整理整頓され、明るく風通しもよく温度や湿度も管理された共用空間である。利用者の作品や行事の写真などが壁に掲示され、季節が感じられる。利用者は、リビングで和やかに寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性を考慮し席を配置している。活動の時も親しいグループで楽しむことが出来る環境づくりを行っている。入居者様によっては場所を移動し一人で落ち着いて過ごす時間を持てるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でも使用していた家具等を持参し使用されたり、家族の写真を飾ったりしている。	居室には、ベッドと防災カーテンが設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが設置されている。また一人一人の状況に応じて室内の移動をする等、安全確保に努めている。入居者によっては歩行器やシルバーカーを使用して自身で動けるよう福祉用具も活用している。		